



<https://www.unesco.or.jp/hiroshima/>

わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立つて考えます
- かけがえない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます
(「わたしの平和宣言」は、ノーベル平和賞受賞者たちが起草した6項目の誓い)

国連は、2000年から始まった平和の文化国際年を記念して、「私の平和宣言」キャンペーン活動などを全世界で展開しました。広島ユネスコ協会は、これに呼応して、この『平和の鐘を鳴らそう』事業を開始しました。中学・高校生や市民、外国の方なども参加して、平和記念公園で平和を願ってみんなで平和の鐘を打ち鳴らしています。

第24回 迎える『平和の鐘』

“連帯、種まき”運動さらに
回数、本年度中(予定も含めた)の数字です

平和、教育、文化、青少年育成、国際交流 ユネスコの理念普及、拡大へ

機関紙「ヒロシマユネスコ」発刊50年(1975年11月創刊)。協会発足以来、心の中に平和のとりでを築くため、粘り強く活動(「平和の種まき」)を展開してきました。

機関紙発刊50年 人の心の中に平和のとりでを!



広島ユネスコ協会の2025年度総会。

平和・青少年育成などに向け新出発しました

広島ユネスコ協会総会

本年度の総会を開き、事業報告や2025年度の事業計画などについて提出議案を審議、『世界のひとと話そう』、『平和の鐘を鳴らそう』、『英語でガイド』ひろしま、『高校生国際理解セミナー』、『広島ユネスコ活動奨励賞』、『ユネスコサロン』、『韓国ユネスコ大

(2009・8) 産部会
本年度第28回『活動奨励賞』
1998年よりユネスコ憲章の理念を踏まえ、平和の文化と持続可能な社会を築く実践的な活動を行っている団体に『広島ユネスコ活動奨励賞』を授与し、これまで232団



今後の10年後、20年後も地域に貢献するユネスコ活動として発展させて行きたいと考えています。
(平和・世界遺産部会)

(2024・3) 本年度190回めさす『ユネスコサロン』
『ユネスコサロン』は、1988年1月から始まり、37年間の活動で、本年度190回(7月12日にも188回を開



る団体も応募可能としております。たくさんのご応募をお待ちしています。
(教育部会)

体を顕彰致しました。
本年度も、第28回広島ユネスコ活動奨励賞の募集を行います。これまで、授賞された団体であっても20年以上活動を続けている団体や、活動をさらに充実・発展させてい

邱協会との親善交流(受け入れ)、『機関紙の発行』などの事業計画を可決、新役員も承認しました。
本年は被爆80周年の意義ある年。参加者は紛争のない、共存・協調の世界実現に向け、地道に活動を持続展開していくことを、改めて決意し出発しました。
(次項に関連記事掲載)



(2013・12) (青少年育成部会)
学びに終わりはなく、青少年から学ぶ姿勢こそ、私たち大人にとっても大切な学びだと考えています。

第48回『国際理解セミナー』
『高校生国際理解セミナー』は、本年12月に第48回を開催予定。1978年に『高校生のつどい』としてスタートしたのが始まりです。高校生はもちろん世代を超えて「共に学び合う場」として歩みを進めてまいります。異文化理解を通じて育まれるのは、他者への理解、つながりの喜び、そして自らの成長への気づき。学びに終わりはなく、青少年から学ぶ姿勢こそ、私たち大人にとっても大切な学びだと考えています。



(文化部会)
らも会員からの要望や提案を基に心に残る講演会を企画していきます。

催)を迎えます。

相互交流
第23回 韓国ユネスコ
大邱協会と

広島ユネスコ協会は、1988年から8年間の北京ユネスコクラブ協会との姉妹交流に続いて、2000年から韓国ユネスコ大邱協会との親善・相互交流を開始し、本年度で23回目を数えます（12月5日から同8日まで）。

平和の鐘を鳴らそう 2025

○8月15日(金)午前10時

○広島平和記念公園「平和の鐘」鐘楼前で

高校生と会員等が、戦争と核兵器使用等のない平和な世界の実現を目指し、平和についてスピーチし、平和についての思いをアピールします。

(平和・世界遺産部会)

役員紹介

総会で承認された役員（任期は2025・26年度）は、次の通りです

◎部会長 ○副部会長 ☆新任
名誉会長 松井一實
名誉顧問 平岡敬 秋葉忠利
顧問 亀井章 中山修一
参与 藤井正一 井尾義信
柴田幸子 松原博子
☆木原亮 ☆藤井孝行
松岡盛人
副会長 古田碩永（総務・組織・広報）

青壮年事業 2つの活動スタート

『世界のひとと話そう』（8・24）

『次世代への歴史・文化バトンプロジェクト』（8・2）

青壮年対象事業推進プロジェクトとして、2つの事業を8月からスタートさせます。『世界のひとと話そう』は外国の人とのコミュニケーション体験事業であり、『次世代』は広島にある平和・国際交流に関するお話を聴いたり、場所を訪ねたりして学びを深め

部会担当 畑口實（平和・世界遺産部会担当） 湯浅克廣（教育部会担当） 横佩智恵（青少年育成部会担当） ☆高田幸子（文化部会長兼務） ☆政木恵美子（国際部会長兼務） 理事（組織部会） ☆伊藤隆宣 ○児玉賢司 中道結二 ○青少年育成部会 ☆渡邊優子 ○☆坂口英司 ☆教育部会 ○☆岡本洋子 ☆坂本美智子 ○☆岡本洋子 足立柳子 ○文化部会 ○（兼）高田幸子 ○川迫輝嗣

大村直生 木船裕美 ☆浜井道子（国際部会） ◎（兼）政木恵美子 ○☆吉岡康行 山本朝世 平井勇 ○平和・世界遺産部会 ◎内田一士 ○岩田公正 中本信子 阿部頼繁 ☆ファン・デル・ドゥーリス瑠璃 ○広報部会 ◎岡平裕次 ○藤川和康 清水昌法 ○事務局 森木学（事務局長）（兼） ☆平井勇 ○（監事） 國田繁 ☆須藤友美



今回は 宗希璟が、1420年に回礼使として訪れた尾道、江戸時代には毎回朝鮮通信

使が訪れた鞆の浦、釜山の倭城を築城した毛利輝元が築城した広島城など日韓共通の歴史をもつ史跡を訪れ、ともに学びあいます。世界中で混乱と分裂が深刻化している今こそ、市民レベルの交流の意義は大変大きいと考えます。（国際部会）

杉並・広島平和学習

杉並ユ協の「広島平和学習」（広島ユ協が協力）が、3月26、27日に行われ、被爆体験（講師・石橋紀久子さん）を聴き、ユニタール広島事務所での「広島原爆からの復興」について講演していただきました。この会合には杉並ユ協の高



校生や、広島の崇徳高等学校新聞部のメンバーが参加し、日常活動などについて意見交換し、有意義な学習活動となりました。（平和・世界遺産部会）

副会長 畑口實さん（元原爆資料館長）

8月6日、毎年この日は思い出したくない日です。今もって私は『原爆』という言葉が嫌いです。8月6日に父が原爆で死んだとき、私は母の胎内にいました。その後運よく広島市役所に就職しました。爆が、周りには、いつも『原爆』という言葉が飛び交っていました。

被爆80周年 私の想い

50歳の時、父の50回忌の法要を済ませ、これで原爆とはおさらばと思っていたところ、翌年広島平和記念資料館の館長にマスコミと話ししたことがないのに毎日マスコミからの取材攻め。ガマンに我慢して定年退職の9年間館長職にいました。退職の日、10数社で記者会見をし、最後に2人の記者から「畑口さん、あなたの父さんは無残にも原爆で死んだ。あなたは、その様子をお腹の中から見て、その運命を国内外の方々に伝える運命なのではないか」と、少し救われた。80年、父が亡くなった。80年、私の年齢もその数字

理事 大村直生さん（文化部会）

広島県内で育った私は核爆弾が広島・長崎で炸裂した時の様子を学校等で学んできた一人です。自身がやけどを負い、或いは家族を焼き殺されたヒバクシャは「核兵器を使つてはならぬ」「戦争をしてはいけない」と声を上げます。他者の未来にこんな悲劇を繰り返さないようにと必死で投下したアメリカに「憎め」とは言わずに、お陰で私は特定の国への憎悪を心に刻まずに済みました。

その事実をかみしめる時、心の底から湧き上がる深い感謝を、どう伝えたらよいでしょう。UNESCO憲章前文には、こう記されています。『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』と。

「さあ「とりで」を築く旅はこれから続きます。新しい一歩を、どうぞ一緒に。」